



薩摩半島から得られた九州沿岸初記録のナカハラタナバタウオ

中村亮太¹・本村浩之²

Author & Article Info

¹ 鹿児島大学水産学部（鹿児島市）
k9948835@kai.ac.jp² 鹿児島大学総合研究博物館（鹿児島市）
motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp (corresponding author)Received 14 January 2026
Revised 21 January 2026
Accepted 24 January 2026
Published 24 January 2026
DOI 10.34583/ichthy.63.0_48Ryota Nakamura and Hiroyuki Motomura. 2026. First Kyushu records of *Plesiops nakaharae* (Plesiopidae) from the Satsuma Peninsula, Kagoshima mainland, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 63: 48–51.

Abstract

Eight specimens of *Plesiops nakaharae* (Plesiopidae) were collected from the Satsuma Peninsula on the Kagoshima mainland in Kyushu, Japan. The species has previously been recorded from the Izu Islands, Shizuoka Prefecture, the Ki Peninsula, Kochi Prefecture, the Osumi Islands, the Amami Islands, and Okinawa Prefecture. Thus, the presently reported specimens, described herein in detail, represent the first records of the species from Kyushu.

タナバタウオ科タナバタウオ属魚類 (Plesiopidae: *Plesiops* Oken, 1817) は、インド・太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布し (Mooi, 1995, 2022), 日本からはヨサクタナバタウオ *Plesiops cephalotaenia* Inger, 1955, タナバタウオ *Plesiops coeruleolineatus* Rüppell, 1835, ドンコタナバタウオ *Plesiops corallicola* Bleeker, 1853, ナカハラタナバタウオ *Plesiops nakaharae* Tanaka, 1917, オキナワタナバタウオ *Plesiops oxycephalus* Bleeker, 1855 およびアマミタナバタウオ *Plesiops verecundus* Mooi, 1995 の6種が知られている (林, 2013). このうち, ナカハラタナバタウオは国内においてこれまでに相模湾から琉球列島にかけての太平洋・東シナ海沿岸から散発的に記録されている (林, 2013; 木村ほか, 2017; 下瀬, 2021; 萩原, 2022).

2024 年 11 月から 2025 年 12 月にかけて鹿児島県本土の薩摩半島から 7 個体のナカハラタナバタウオが採集され

た. また, 鹿児島大学総合研究博物館に所蔵されている魚類標本を調査したところ, 1965 年に薩摩半島で採集された 1 標本が本種に同定された. これらの標本は本種の九州沿岸初記録となるため, ここに報告する.

材料と方法

計数計測方法は Mooi (1995) にしたがった. 標準体長 (standard length) は体長または SL と表記した. 計測はデジタルノギスを用いて 0.01 mm 単位まで行ったものを四捨五入して表記した. 標本の作製, 登録, 撮影, および固定方法は本村 (2009) に準拠した. 本報告に用いた標本は鹿児島大学総合博物館 (KAUM) に保管されており, KAUM-I. 27017 を除いた上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている.

Plesiops nakaharae Tanaka, 1917

ナカハラタナバタウオ

(Fig. 1; Table 1)

標本 KAUM-I. 27017, 体長 82.4 mm, 鹿児島県指宿市開聞十町 脇浦花瀬, 31°11'36"N, 130°30'27"E, 水深不明, 1965 年 8 月 18 日, 採集者不明; KAUM-I. 213028, 体長 72.7 mm, 2024 年 11 月 3 日, KAUM-I. 214073, 体長 60.5 mm, KAUM-I. 214074, 体長 91.6 mm, KAUM-I. 214075, 体長 91.6 mm, 2024 年 12 月 17 日, KAUM-I. 214144, 体長 86.7 mm, 2024 年 12 月 18 日, 鹿児島県南さつま市笠沙町野間池, 31°24'48"N, 130°07'44"E, 水深 0.3 m, 手網, 中村亮太・大井真人; KAUM-I. 222093, 体長 42.8 mm, 2025 年 12 月 6 日, 鹿児島県南九州市頰娃町別府 番所鼻自然公園地先, 31°14'46"N, 130°26'04"E, 水深 0.1 m, 徒手, 是枝伶旺; KAUM-I. 222210, 体長 79.5 mm, 2025 年 12 月 8 日, 鹿児島県枕崎市火之神岬町, 31°14'59"N, 130°16'43"E, 水深 0.2 m, 手網, 加瀬出帆.

記載 体はやや細長く, 側扁する. 体背縁は吻端から背鰭基部にかけて緩やかな曲線で上昇し, 背鰭基底後端に

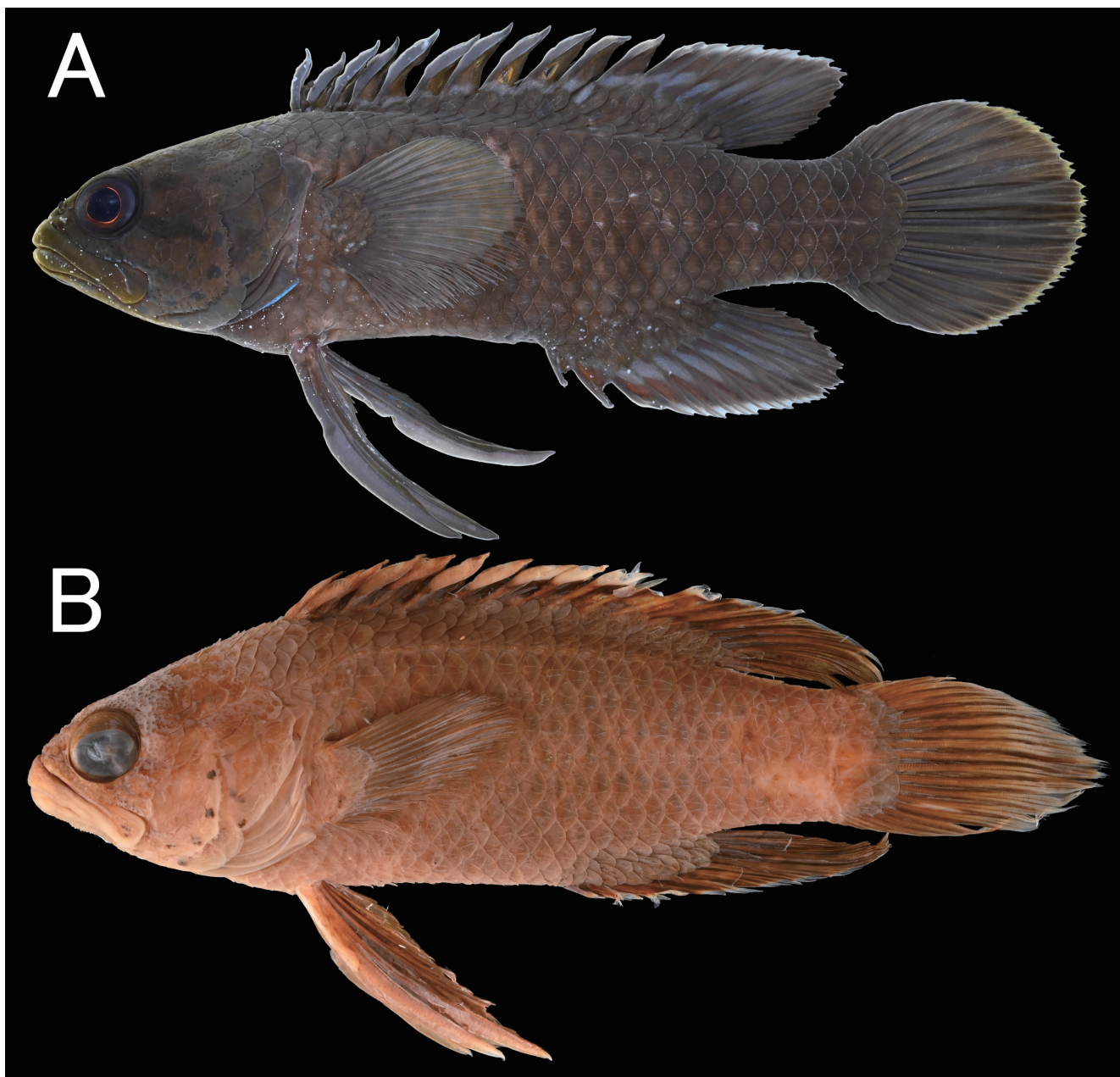


Fig. 1. Specimens of *Plesiops nakaharae* from the Satsuma Peninsula, Kagoshima mainland, Japan. A: KAUM-I. 213028, 72.7 mm SL; B: KAUM-I. 27017, 82.4 mm SL.

かけて下降する。尾柄部背縁はわずかに下方に膨らんだ曲線。体腹縁は下顎先端から腹鰭基部にかけて直線状に下降した後、臀鰭起部までは体軸に平行な直線で、そこから臀鰭基底後端にかけて上昇する。尾柄部腹縁は直線状。吻端はやや丸みを帯びる。眼と瞳孔は円形。鼻孔は2対あり、前鼻孔と後鼻孔は近接し、いずれも眼前端の前方に位置する。前鼻孔は短い鼻管をもち、後鼻孔は上下方向の楕円形。口裂は体軸に対して約40°上向きで、上顎と下顎の先端は同位。上顎後端は眼後端直下のわずかに後方に位置する。上顎、下顎ともに、小円錐歯が多数の列をなし、歯帯を形成する。鋤骨には多数の円錐歯が不規則に並ぶ。口蓋骨には左右それぞれに上下方向に細長い歯列があり、小円錐歯が多数の列をなす。いずれの円錐歯も先端が尖り、やや内側を向く。前鰓蓋骨後縁および下縁には半円形の突起が並

び、波状。主鰓蓋骨に棘がない。背鰭と臀鰭基底付近、背鰭第5棘から前方の体側、胸鰭基底、背鰭前方、および頭部は円鱗、それ以外は櫛鱗にそれぞれ被われる。側線は2本あり、上方の側線は鰓孔上端から背鰭第7棘直下付近にかけて上昇し、その後は背鰭基底に沿って背鰭基底後端まで走る。下方の側線は背鰭第12棘直下付近から尾鰭基底まで体軸上を走る。背鰭起部は主鰓蓋骨後端直上のわずかに前方に位置し、背鰭基底後端は臀鰭基底後端より後方に位置する。胸鰭基底上端は主鰓蓋骨後端直下のわずかに後方、胸鰭基底下端はその上端直下より後方にそれぞれ位置する。胸鰭後縁は円形で、その後端は臀鰭起部直上に達しない。胸鰭下方軟条は遊離し、下方ほど遊離部分は長くなる。胸鰭下方軟条は4分枝。腹鰭起部は背鰭起部直下付近に位置し、たまただ腹鰭後端は臀鰭基底に達する。臀鰭起

部は背鰭第 10 棘直下付近、臀鰭基底後端は背鰭基底後端直下のわずかに前方にそれぞれ位置する。尾鰭は円形。

色彩 生鮮時 (Fig. 1A) — 頭部および体部は茶褐色で、背側ほど暗くなる。瞳孔は黒色。虹彩は赤褐色で、内縁は橙色に縁どられる。虹彩の周囲は青灰色に縁どられる。眼後縁から前鰓蓋骨後端付近、眼下縁から上顎後端を経て前鰓蓋骨後下縁にかけて不明瞭な黒色帯がある。前鰓蓋骨後縁に沿って 4 つ、上顎下端付近に 1 つの黒色小斑がある。主鰓蓋骨および胸鰭基底周辺には不明瞭な青白色小斑が散在する。鰓蓋膜下縁は青色に縁どられる。胸鰭軟条は基部周辺が暗灰色で、先端に向かうにしたがって黄色みを帯びる。胸鰭鰭膜は半透明の灰色。腹鰭は前縁が青灰色に縁どられ、鰭条は茶褐色。腹鰭鰭膜は暗青色で、上下方向に長い赤褐色斑が並ぶ。背鰭棘の上部は青灰色で、基部は茶褐色。背鰭軟条部は茶褐色で、上縁は青灰色に縁どられる。背鰭鰭膜は棘部が黄色みがかかった茶褐色、軟条部は茶褐色。

Table 1. Counts and measurements of *Plesiops nakaharae* from the Satsuma Peninsula, Kagoshima mainland, Japan. Modes in counts and means in measurements in parentheses.

	<i>n</i> = 8
SL	42.8–91.6
Counts	
Dorsal-fin rays	XII, 7
Anal-fin rays	III, 8
Pectoral-fin rays	20–21 (21)
Pelvic-fin rays	I, 4
Principal caudal-fin rays	9 + 8
Upper line scales	19–21 (20)
Lower line scales	11–13 (13)
Midlateral series	23–24 (24)
Scales above upper line	3–4 (4)
Scales below upper line	10–11 (11)
Predorsal scale rows	4–9 (7)
Measurements (%SL)	
Head length	36.4–38.6 (37.5)
Body depth at anal-fin origin	27.7–33.7 (30.2)
Body width at pectoral-fin base	19.8–23.1 (21.6)
Caudal-peduncle length	19.4–22.4 (21.0)
Caudal-peduncle depth	14.5–16.7 (15.6)
Dorsal-fin base	48.1–54.2 (52.2)
Anal-fin base	19.7–22.9 (20.9)
Pre-dorsal-fin length	35.1–36.7 (36.2)
Pre-pelvic-fin length	32.6–36.2 (34.8)
Preal length	59.6–63.5 (61.8)
Pectoral-fin length	22.6–24.7 (24.0)
Pelvic-fin length	34.3–40.1 (37.4)
Longest dorsal-fin ray	19.7–23.1 (21.1)
Longest anal-fin ray	19.1–23.9 (21.2)
Head depth at posterior margin of orbit	19.8–23.0 (21.2)
Head depth at posterior margin of preopercle	23.2–29.9 (27.2)
Head width at dorsal tip of preopercle	19.7–22.3 (21.2)
Snout length	7.0–9.2 (7.8)
Upper-jaw length	17.1–18.2 (17.5)
Orbital diameter	9.3–10.3 (9.8)
Bony interorbital width	3.4–4.1 (3.7)
Posterior internasal width	6.1–6.9 (6.5)



Fig. 2. Habitat of *Plesiops nakaharae* in the Satsuma Peninsula, Kagoshima mainland, Japan.

背鰭第 3 棘基部から背鰭軟条部中央にかけて、後方に向かうにしたがって不明瞭になる青色帯がある。臀鰭は下縁が白色に縁どられ、棘および軟条は茶褐色。臀鰭鰭膜は赤褐色、第 3 棘基部から臀鰭後端にかけて後方ほど不明瞭になる青色帯がある。尾鰭は鰭条、鰭膜ともに茶褐色。尾鰭後縁は黄色く縁どられる。

固定後 (Fig. 1B) — 頭部および体部は黒みがかかった褐色 (KAUM-I. 27017 は赤褐色)。前鰓蓋骨後縁に沿って 4 つ、上顎下端付近に 1 つの黒色小斑がある。鰭は体部より黒みがかかった褐色で (KAUM-I. 27017 はやや黒みがかかった赤褐色)、背鰭、臀鰭、尾鰭の外縁、および腹鰭の前縁は白色に縁どられる (KAUM-I. 27017 は白みがかかった赤褐色)。

分布 日本国外では台湾南部、国内では伊豆諸島 (伊豆大島・三宅島・八丈島)、静岡県、三重県、和歌山県、高知県、大隅諸島 (口永良部島)、奄美諸島 (奄美大島・加計呂麻島)、および沖縄県から記録されている (田中, 1917, 1918; Sano et al., 1984; 林, 1993, 2013; Mooi, 1995; 木村ほか, 2017; 下瀬, 2021; 萩原, 2022; 和田ほか, 2024)。

採集時の状況 観察標本は KAUM-I. 27017 を除き、いずれも波当たりの強い岩礁性海岸や転石海岸で採集された。野間池漁港西方は巨岩が散在し、巨岩間の砂底上に直径 10–50 cm ほどの転石が堆積した岩礁性海岸で、大潮干潮時には複数の巨岩に囲まれたタイドプール状の環境が形成される。本種は上記の環境の転石下から採集された。調査地点では一つの転石下から複数の個体が採集されることもあった。同所ではホシキカイウツボ *Uropterygius* sp. sensu Hatoaka (2000) (KAUM-I. 214076, 全長 121.8 mm)、タナバタウオ *Plesiops coeruleolineatus* Rüppell, 1835 (KAUM-I. 214072, 体長 51.2 mm)、およびコミナトテンジクダイ *Apogon kominatoensis* Ebina, 1935 (KAUM-I. 214069, 体長 33.2 mm) が確認された。

番所鼻自然公園地先の岩礁性海岸においては、岩盤の隙間に堆積したサンゴ片と礫が斜面を形成しており、そ

の直下にタイドプールがある。本種は上記のタイドプールから採集された。同所ではホシキカイウツボ、クサビハゼ *Bathygobius cotticeps* (Steindachner, 1879), ヤハズハゼ *Bathygobius cyclopterus* (Valenciennes, 1837), シロズキンハゼ *Heteroleotris poecila* (Fowler, 1946) (KAUM-I. 222089–222091, 体長 25.8–30.8 mm) が確認された。

枕崎市火之神岬町の採集地点は直径 50 cm ほどの転石が散在する転石海岸で、本種は転石の下から採集された。同所ではホシキカイウツボが確認された。

備考 観察標本は前鰓蓋骨後縁に沿って 4 つの暗色小斑があること、主鰓蓋骨に暗色眼状斑がないこと、主上顎骨後端が眼の後縁直下付近に位置すること、胸鰭下方軟条が 4 分枝であること、背鰭棘数が 12 であることが Sano et al. (1984), Mooi (1995), および林 (2013) が示したナカハラタナバタウオ *Plesiops nakaharae* の特徴と一致したため本種に同定された。

Aoyagi (1941, 1943) は *P. nakaharae* Tanaka, 1917 を *P. oxycephalus* Bleeker, 1855 の新参異名とし、*P. oxycephalus* に対してナカハラタナバタウオの和名を用いた上で沖縄島糸満と石垣島からナカハラタナバタウオ *P. oxycephalus* を記録した（沖縄島産は 3 個体、体長 59.1–73.7 mm；石垣島産の個体数は不明）。しかし、現在では *P. nakaharae* と *P. oxycephalus* はどちらも有効種として扱われ、前者にナカハラタナバタウオ、後者にオキナワタナバタウオの和名が適用されている (Mooi, 1995；林, 2013)。林 (1995) は Aoyagi (1941) のナカハラタナバタウオ *P. oxycephalus* を YCM-P31282 (体長 72.0 mm；ただし産地不明) に基づきナカハラタナバタウオ *P. nakaharae* と再同定した。しかし、Aoyagi (1941, 1943) が報告したナカハラタナバタウオ *P. oxycephalus* の記載には、尾鰭に馬蹄状の橙色帯があると記述されており、彼の標本はオキナワタナバタウオ *P. oxycephalus* であった可能性が高い。

謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり、鹿児島大学大学院連合農学研究科の是枝伶旺氏には貴重な標本を提供いただくとともに、生息環境に関する情報を提供いただいた。鹿児島大学水産学部の大井真人氏、鹿児島大学アクアリウムサークル「クロミス」のみなさまには採集調査にご協力いただいた。鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の学生とボランティアのみなさまには標本の作製および登録作業においてご協力いただいた。匿名の査読者と Ichthy

編集委員の松沼瑞樹氏には原稿に対して適切な助言をいただいた。ここに謹んで感謝の意を表する。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島・琉球列島の魚類多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、JSPS 科研費 (20H03311・21H03651・23K20304・24K02087), JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型 (CREPSUM JPJSCCB20200009), 文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」、および鹿児島大学のミッション実現戦略分事業 (奄美群島を中心とした「生物と文化の多様性保全」と「地方創生」の革新的融合モデル) の援助を受けた。

引用文献

- Aoyagi, H. 1941. Long-fin, “Tanabata-uo,” found in the waters of the Riu-Kiu Islands, with the description of one new subspecies. *Zoological Magazine*, 53: 428–130.
- Aoyagi, H. 1943. Coral fishes. Part I. Maruzen, Tokyo. 224 pp.
- 萩原清司. 2022. 横須賀市自然・人文博物館所蔵魚類資料目録 (V) 横須賀市自然・人文博物館および相模湾海洋生物研究会収集奄美群島産魚類目録. 横須賀市博物館資料集, 46: 1–127.
- 波戸岡清峰. 2000. ウツボ科, pp. 196–211, 1453–1456. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定. 第 2 版. 東海大学出版会, 東京.
- 林 公義. 1993. タナバタウオ科, pp. 642–643, 1314. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定. 東海大学出版会, 東京.
- 林 公義. 1995. 横須賀市自然博物館所蔵魚類資料目録 (III) — 青柳兵司博士収集魚類目録 —. 横須賀市博物館資料集, 20: 1–70.
- 林 公義. 2013. タナバタウオ科, pp. 811–814, 1975. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯 健・小枝圭太 (編). 2017. 緑の火山島 口永良部島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 200 pp.
- Mooi, R. D. 1995. Revision, phylogeny and discussion of biology and biogeography of the fish genus *Plesiops* (Perciformes: Plesiopidae). *Royal Ontario Museum Life Sciences Contributions*, 159: 1–107.
- Mooi, R. D. 2022. Family Plesiopidae, pp. 146–151. In Heemstra, P. C., E. Heemstra, D. A. Ebert, W. Holleman and J. E. Randall (eds.) *Coastal fishes of the western Indian Ocean*. Vol. 3. South African Institute for Aquatic Biodiversity, Makhanda.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- Sano, M., M. Hayashi, H. Kishimoto, H. Manabe and K. Kobayashi. 1984. Validity of the plesiopid fish *Plesiops nakaharae* Tanaka, 1917, with a record of *Plesiops cephalotaenia* from Japan. *Science Report of the Yokosuka City Museum*, 32: 11–22, pls. 6–7.
- 下瀬 環. 2021. 沖縄さかな図鑑. 沖縄タイムス社, 那覇. 208 pp.
- 田中茂穂. 1917. 日本産魚類六新種. *動物学雑誌*, 29: 198–201.
- 田中茂穂. 1918. 日本産魚類図説, 28: 495–514, pls. 136–137.
- 和田英敏・小枝圭太・上島 励. 2024. 東京大学総合研究博物館動物部門所蔵魚類標本リスト (3). 東京大学総合研究博物館標本資料報告第 132 号. 東京大学総合研究博物館, 東京.